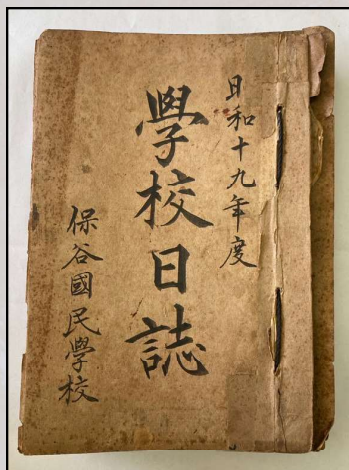


戦時中も続く、学校の日常

とくべつ
特別
てんじ
展示

戦時中の子ども・若者



保谷小学校に保管されていた
「昭和19年度 学校日誌」



市立保谷小学校 校舎

学校日誌が当時を語る

保谷小学校は、昨年（さくねん）に開校百五十周年を迎えた学校（がっこう）です。

八十年前（はちじゅうねんまえ）、戦時中（せんじちゅう）も学校（がっこう）の日常（にちじょう）はありました。

毎年（まいとし）、西東京市（にしとうきょうし）の平和（へいわ）の日（ひ）には、校長先生（こうちょうせんせい）が戦争（せんそう）当（とう）時の学校（がっこう）の様子（ようす）を伝え（つた）、今（いま）のあたりまえ（せいにかつ）の生活（せいかつ）が戦争（せんそう）争（そう）の時（とき）には子ども（こ）から奪（うば）われていたこと（こと）、平和（へいわ）の大（たい）切（せつ）さを語り継（つ）いできました。

今回（こんかい）の展示（てんじ）では、お話（はなし）の元（もと）とな（な）った当時（とうじ）の学校（がっこう）日誌（にっし）を公開（こうかい）します。淡々（たんたん）とした記録（きろく）の中（なか）にも、今（いま）とは違（ちが）う戦時中（せんじちゅう）の小学（しょうがく）校（がっこう）の様子（ようす）が描（えが）かれています。

みなさん（みなさん）も、この記録（きろく）から当時（とうじ）の子（こ）どもたち（たち）の様子（ようす）を想像（そうぞう）し、戦争（せんそう）と平和（へいわ）について考（かんが）えてみ（み）ま（ま）し（し）よう（う）。

戦争（せんそう）中（ちゅう）も学校（がっこう）に
通（かよ）っていたんだね（ね）
どん（どん）な様子（ようす）だった（た）のかな（な）？



保谷国民学校（ほぐやこくみんがっこう）高等科（こうとうか）の生徒（せいと）たち
1945（昭和20）年（ねん）

戦争（せんそう）未（み）期（き）には、高等科（こうとうか）（当（とう）時（じ）12歳（さい）～14歳（さい））の生徒（せいと）も軍（いくさ）需（きよ）工（こう）場（ば）に動員（どうぎん）され（さ）れた（た）。

『保谷（ほぐや）の被曝（ひばく）記（き）』より



昭和17年（しやうわ ねん）～昭和21年（しやうわ ねん）
第九代（だいいちゆうだい）校長（こうちやう） 富澤（とみざわ）國造（くにぞう）

昭和19年12月3日 日曜日 晴

散華乙女の碑

校長印		要		要	
日		曜		日	
度		温		象	
高		初		出	
等		等		席	
				兒	
				童	
				總	
				數	
				缺	
				席	
				兒	
				童	
				總	
				數	
係		計		計	
印					

(意識)

米機の空襲(午後2時)町内に被弾多く被害も相当多し

初等部5年生男子 下田さん爆死 櫻井さん重傷

保谷小学校として、児童が犠牲となったこの日、中島飛行機武蔵製作所で学徒勤労動員中だった武蔵野女子学院の生徒たちは、空襲警報を受けて学校へ避難していました。しかし、中島飛行機武蔵製作所に向けて落とされたB29爆撃弾は目標はずれ、生徒が避難していた防空壕に被弾、当時、同校高等女学校5年生だった4名の女子生徒が犠牲になりました。

1948年、当時の校長が哀悼の意を込めてワビスケ(椿)を植樹し、1978年、記念樹碑(散華乙女の碑)が建立されました。戦争の悲惨さを後世に伝えるため、武蔵野大学では毎年追悼会が行われています。

昭和20年4月12日 木曜日 晴

西東京市平和の日



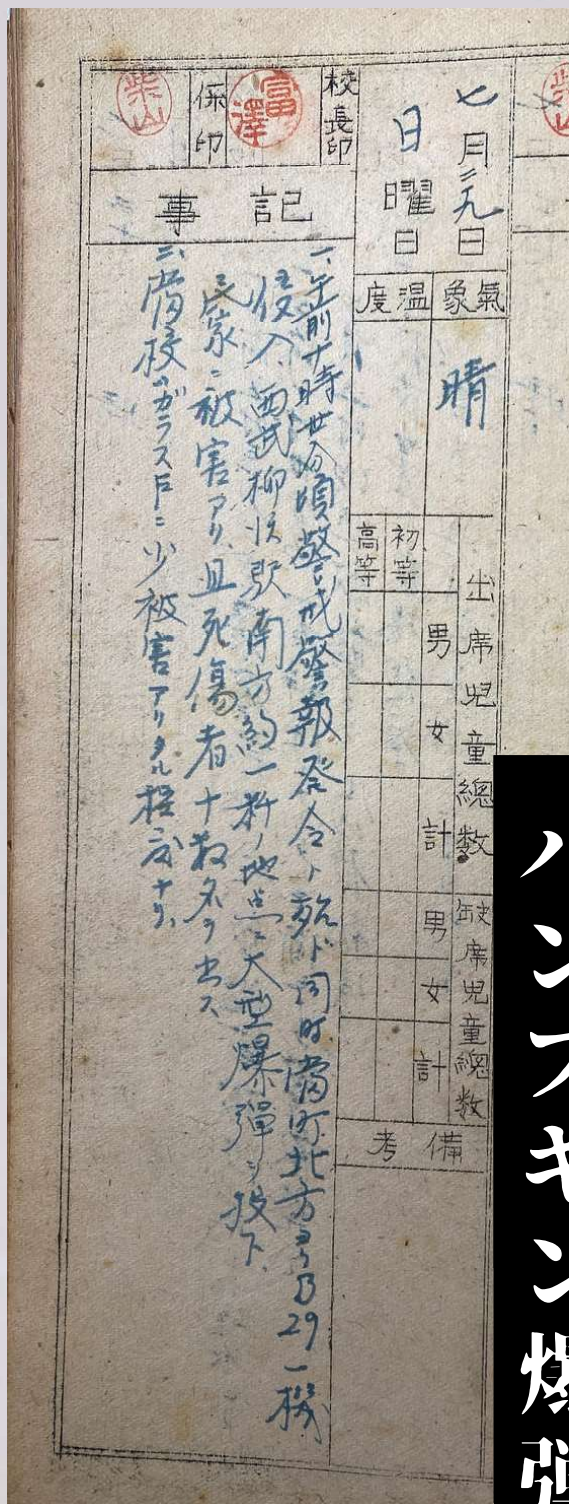
(意訳)

- 一、午前8時30分警報発令、午後2時解除
- 二、至近弾を受けたるも被害なし
- 三、高橋訓導新任挨拶
- 四、応召滝島訓導留守宅に至近弾、家屋被害甚大なり

この日、中島飛行機武蔵製作所を爆撃目標とした1トン爆弾が投下されました。爆弾は目標を大きく外れ、田無駅前(現アスタ)、所沢街道北原、保谷町に着弾し、100名以上の犠牲者が出ました。田無駅のホームは吹き飛び、50軒以上の家屋が全壊するほどの衝撃でした。当時の保谷小学校周辺でも、至近弾を受け家屋が損壊するなどの被害がありました。

昭和20年7月29日 日曜日 晴

パンプキン爆弾



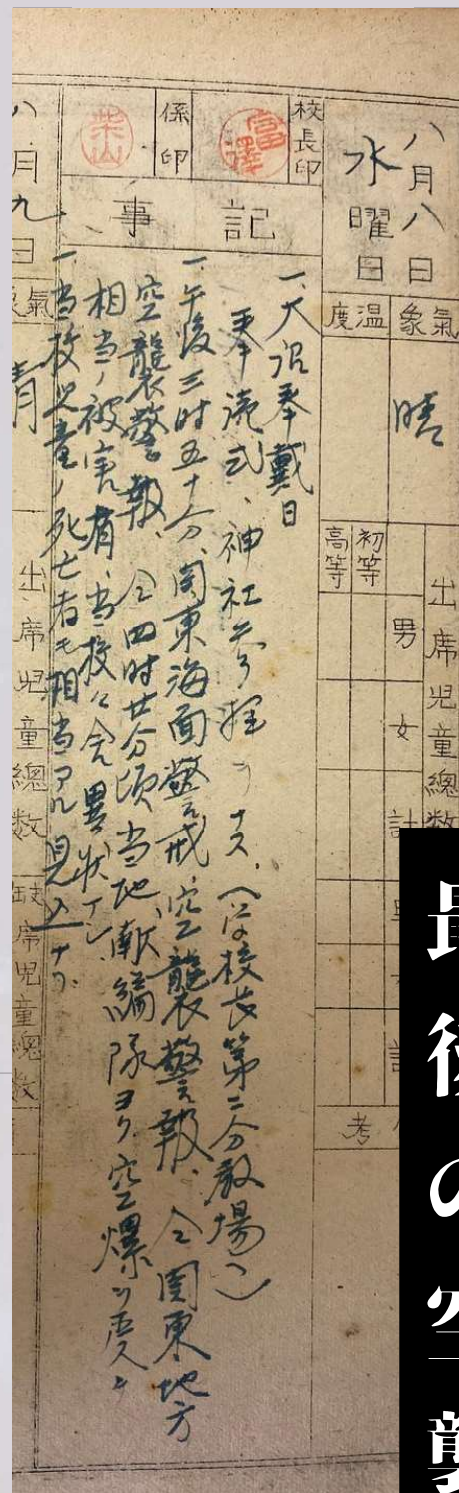
(意訳)

- 一、午前10時30分頃警戒警報発令と殆ど同時に当町北方よりB29一機侵入 西武柳沢駅南方約一軒の地点に大型爆弾を投下 民家に被害あり、且死傷者十数名を出す 当校はガラス戸に少被害ありたる程度なり
- 二、

昭和20年7月29日に、現在の西武柳沢駅南側にある「しじゅうから第二公園」に模擬原子爆弾（パンプキン爆弾）が投下されました。アメリカは、原子爆弾の投下訓練のために模擬原子爆弾を日本国内の49か所に投下し、そのうちの1発が西東京市内に落ちました。当時、その場所はじゃがいも畑で、農作業中の女性3名が亡くなりました。このとき爆弾を投下したB29爆撃機は、のちに長崎に原子爆弾を投下した機体となります。

昭和20年8月8日 水曜日 晴

最後の空襲



(意訳)

一、大詔奉戴日

奉読式、神社参拝をなす（学校長第二分教場へ）

一、午後3時50分、関東海面警戒、全関東地方

空襲警報、同4時20分頃当地、敵編隊より空爆を受け

相当の被害有、当校に全く異状なし

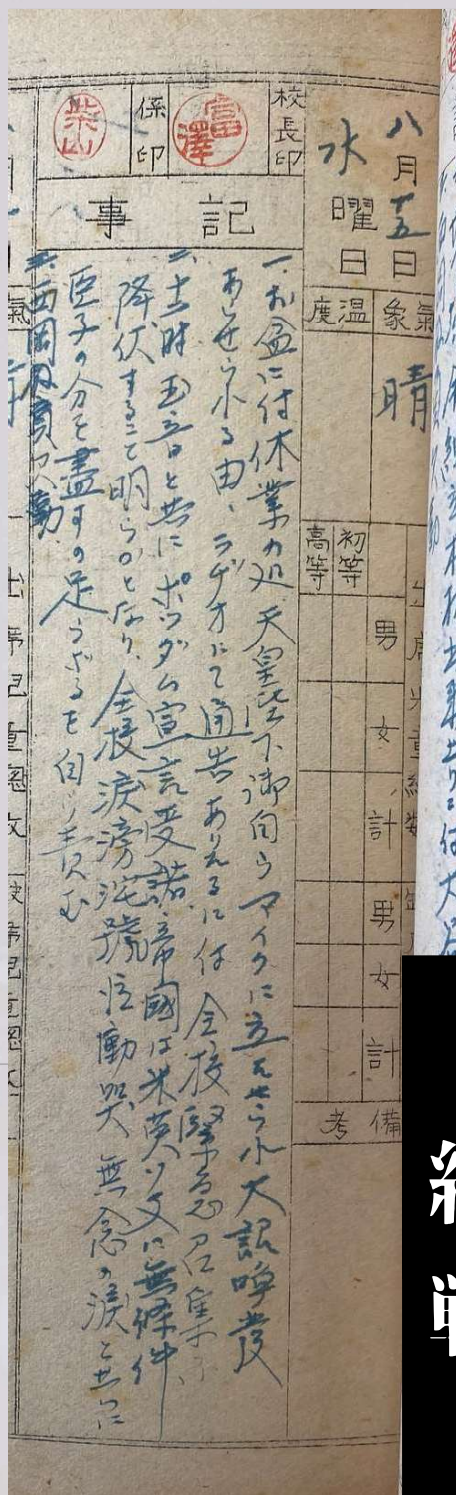
一、当校児童の死亡者も相当ある見込みなり

大詔奉戴日とは、大東亜戦争(太平洋戦争)完遂のための大政翼賛の一環として終戦まで毎月8日に実施された国民運動を行う日です。国旗を出し、学校で式を行うところもありました。

終戦の1週間前、激しい空襲に襲われ、たくさんの被害と、多くの児童が亡くなりました。この日が、西東京市として被害を受けた最後の空襲となります。

昭和20年8月15日 水曜日 晴

終戦



(意訳)

一、お盆に付休業の処、天皇陛下御自らマイクに立たせられ大詔

喚発あらせられる由、ラジオにて通告ありえるに付全校緊急

召集

二、12時玉音と共にポツダム宣言受諾、帝國は米英ソ支に

無条件降伏すること明らかとなり、全校涙滂沱號泣慟哭

無念の涙と共に臣子の分を盡すの足らざるを自ら責む

1945年8月14日、第二次世界大戦において日本の無条件降伏を要求するポツダム宣言を受け入れることを決定し、翌15日正午に天皇の玉音放送(ラジオ放送)にて、国民にそれを知らせました。

これにより国民は戦争の終結を知り、驚き、怒り、悲しみ、安堵などさまざまな感情を抱きました。